

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2022 December vol. **72** 発行人/吉田 直美 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

日本歯科衛生学会 第17回学術大会 ポストコロナ時代の口腔健康管理 — 口腔から支える健康長寿 —

主催：日本歯科衛生学会、公益社団法人日本歯科衛生士会
共催：一般社団法人徳島県歯科衛生士会
後援：徳島県、徳島市、一般社団法人徳島県歯科医師会、
一般社団法人徳島市歯科医師会

「日本歯科衛生学会 第17回学術大会」が、2022年9月18日(日)～10月31日(月)の44日間にわたり、新型コロナウイルス感染症の感染状況の下、参加者の安全に配慮して、昨年と同様にWeb開催(オンデマンド配信/一部ライブ配信)で行われた。

参加者は1,217名であった。当初は新型コロナウイルス感染症の感染縮小傾向がみられたことから、「ポストコロナ時代の口腔管理」としてハイブリッド開催を予定していたが、いまだウィズコロナ時代であり、残念ながら、初の四国での現地開催は見送ることになった。

開催期間が延長され、通常は並行開催されている講演・発表も視聴可能となり、質問も記入できた。講演など6題、県民フォーラム1題、口演発表20題、ポスター発表92題、企業協賛セミナー3題、ライブ配信1題のプログラムが生まれ、最新情報の入手により会員の研鑽が継続された。

本誌では、以下のセッションについて報告する。

- 教育講演1・2
- 日本口腔衛生学会共同企画
- 日本歯科保存学会共同企画
- 研究討論会



日本歯科衛生学会
学会長
吉田 幸恵氏



第17回学術大会
大会長
河野 美枝子氏



日本歯科衛生士会
会長
吉田直美氏

告示

公益社団法人 日本歯科衛生士会 代議員選挙のお知らせ

令和4年12月1日
選挙管理委員会

定款第12条及び代議員選挙規則に基づき、
代議員選挙を下記のとおり執り行います。

記

1 選挙期日

令和5年3月7日(火)

2 代議員選出数

都道府県別・令和4年9月30日現在の正会員数に基づいて決定(都道府県別の代議員数は4頁参照)

3 選挙人

令和4年12月7日(選挙期日の90日前)現在の正会員

4 被選挙人

令和4年12月7日現在の正会員であって、所属する都道府県歯科衛生士会の正会員5人以上の推薦を受けた者

5 立候補の届出

- ① 立候補者は、正会員5人以上の推薦を受け、所定の立候補届出書類(立候補届出書、経歴書、推薦書)を所属する都道府県歯科衛生士会に提出する。
- ② 立候補届出書類は、日本歯科衛生士会ホームページからダウンロード、または都道府県歯科衛生士会に申し出る。

6 届出締切

- ① 立候補者から所属の都道府県歯科衛生士会への届出
令和4年12月7日～令和4年12月27日(必着)
- ② 都道府県歯科衛生士会から選挙管理委員会への届出
令和5年1月6日(当日消印有効、書留郵便)

7 当選者の決定

- ① 選挙区ごとの候補者が定数を超えないときは、当該選挙区の候補者を投票によらず当選者とする。
- ② 選挙区ごとの候補者が定数を上回るときは、郵便投票により選出する。
 1. 選挙管理委員会から令和5年2月1日付で都道府県別・候補者一覧表及び投票用紙(返信用封筒を含む)を選挙人に送付
 2. 投票期間:投票用紙の到着日から令和5年3月7日まで(当日消印有効)
 3. 開票及び当選者の決定:令和5年3月12日、選挙管理委員会の指揮監督のもと、開票立会人が立会い、開票管理人が開票事務を行い、当選者を決定する。

8 当選者の告示

選挙管理委員会は、当選者について都道府県歯科衛生士会長及び候補者本人に書面により通知する。同時に、本会ホームページに掲載した後、直近の「歯科衛生だより(会報)」に掲載し、全国の正会員に報告する。

教育講演1

なぜ、今、口腔がん検診か？

－ 口腔がん・口腔粘膜疾患の診かた・見つけ方 －

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 口腔外科学分野
教授 宮本 洋二氏



口腔がんが他のがんと比較して、機能的ダメージが大きいことは容易に想像がつく。手術療法で舌や顎の一部を切除することによる機能障害、また薬物療法および放射線療法による有害事象など、口腔がんは患者さんの「食べる」「話す」機能を低下させる。それだけではなく、もっと大きいのは精神的ダメージである。宮本先生は、この心身に大きな負担を強いる口腔がんを少しでも早期に発見し、治療を開始できることを強く願っておられる。それには、歯科衛生士の力が不可欠である。口腔がんは見えるところに発症するため、異常と確定できなくても、疑わしいと感じた時は、2週間後に再診で確認ができる。これが早期発見・早期治療に繋がる大変な強みなのだ。歯科衛生士が日常の業務の中で、ほんの少しの注意力和観察力を持つことで、歯科医師に異常を伝えることができる。ご講演では症例写真と観察するポイントをご提示いただいた。多くの歯科衛生士が観察力を身につけたに違いない。

(日本歯科衛生学会 研修委員会 畠中 能子)

教育講演2

これだけは知っておきたい研究倫理

東京歯科大学短期大学
学長 鳥山 佳則氏



研究を進めるにあたり、ハードルとなることが多い研究倫理について、基礎から最新の情報まで、わかりやすくご説明いただいた。

ご講演は、不正行為の種類、倫理審査やインフォームド・コンセントの意義から始まり、医学系研究倫理指針の改正、さらには利益相反に至るまで、幅広く充実した内容であった。倫理指針については、倫理指針が適応か否かと判断に迷う例として、「学生に対するアンケート調査により講義の理解度を把握するための研究」を挙げられ、倫理審査の対象外となるが多くの学会が論文投稿や学会発表の際に、倫理審査委員会の承認を要件としている実情を踏まえて、具体的な対応策をご提示くださった。また、利益相反は「研究不正」ではなく「公正性がないと懸念されかねない状態」であり、研究の公正性を担保するための適正管理が目標であると説明された。

今回のご講演をきっかけに、研究に挑戦する歯科衛生士が増えることを期待したい。

(日本歯科衛生学会 編集委員会 伊藤 奏)

日本口腔衛生学会共同企画

歯科衛生研究の進め方

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔疾患予防学分野
教授 品田 佳世子氏



講演は「はじめに」として、歯科衛生研究にはルールがあり、倫理審査委員会の了承が必須であると述べられた。次に「テーマと文献検索」では文献検索の必要性と検索エンジンの操作手順をお示しいただいた。「研究目的、研究方法、研究対象」は、研究デザイン(方法)と研究対象(者と数)分析方法の説明があり、研究方法は質的研究と量的研究があるとご説明があった。「結果分析、考察」では、質的研究はSCATなどがあり、量的研究は統計学的解析が必

要であることと、方法及び変数の尺度についてご提示があった。さらに研究テーマの具体例のご提示があり、研究テーマの設定についてイメージできた。

最後に「まずは研究を始めてみてください。学会でもサポートします。」とのお言葉で締めくくられた。

(日本歯科衛生学会 編集委員会 新井 恵)

日本歯科保存学会共同企画

う蝕予防管理

－ 歯科衛生士として生涯にわたるアプローチのこれから －

う蝕の現状：根面う蝕、う蝕予防管理：プログラムの活用のポイント、再治療と二次う蝕/う蝕予防管理、う蝕ゼロへのアプローチのこれからという4つのテーマからお話を頂いた。特に30代前半までの永久歯う蝕有病率の減少、65歳以上の永久歯う蝕有病率の増加、高齢者の現在歯数の増加という現状から根面う蝕の問題点や予防方法について詳しくご説明いただいた。個人の歯科衛生と公的な歯科衛生の両方へアプローチを行い、健口(健康)維持を目指す

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 口腔保健支援学分野
教授 尾崎 和美氏



したテーラーメイドな歯科医療を実践できる社会を実現していきたいと述べられた。

う蝕は、生涯にわたる予防管理が重要である。医療保険制度の変化や工学、医歯薬学のアップデート等に敏感に反応し、う蝕予防に関わる歯科衛生士が増えることを期待したい。

(日本歯科衛生学会 総務委員会 江口 貴子)

研究討論会

本学会2回目となるWeb開催型研究討論会が開催された。本討論会は、歯科衛生学ないし口腔保健学に関心を持つ歯科衛生士研究者同士の情報交換、質の高い研究の実現、研究結果の社会への還元を目的とした。

3氏が登壇され、研究に至った経緯、研究の概要、研究で苦慮し

たことおよび研究で得られたものなどを発表していただいた。会場からは、研究のフィールドや研究指導体制など研究の環境についての質問があった。

本討論会をきっかけに研究にチャレンジする歯科衛生士が増えることを期待したい。

● 研究討論会 発表者・テーマ

矢野 加奈子氏

広島大学大学院医系科学研究科総合健康科学専攻
「頭頸部がんおよび食道がん周術期患者から分離したカンジダ株
の検出状況と抗真菌薬感受性」

佐々木 美緒氏

広島大学大学院医系科学研究科総合健康科学専攻
「若年成人を対象とした口腔内感覚と栄養摂取状況との関連の
検討」

畑田 晶子氏

関西女子短期大学歯科衛生学科
「成人健常者の舌圧と握力との関連性」

(日本歯科衛生学会 倫理審査委員会 星合 愛子)

日本歯科衛生士会 学術賞

学術発表賞 (公益財団法人ライオン歯科衛生研究所賞)

第16回学術発表賞は、2021年にWeb開催された第16回学術大会の口演およびポスター発表者113名より、学術表彰選考委員会において以下の3名の受賞が決定し、第17回学術大会で公表され、同時に口演発表賞の鈴木 瞳 氏による受賞口演が配信された。

鈴木氏の発表抄録は、日本歯科衛生学会雑誌Vol.16 No.1 (2021年8月発行) p.73

表彰区分	氏名	タイトル
口演発表賞	鈴木 瞳	幼児期における食機能の現状と歯科からの支援に関する検討
ポスター発表賞	川西 順子	口腔筋機能療法(MFT)のポッピング訓練による最大舌圧増加に関する評価
学生研究賞	高澤 維月	局所管理ハイドロゲル創傷被覆・保護材の疼痛緩和効果と歯科衛生士の役割についての検討

(敬称略)

口演 発表賞

幼児期における食機能の現状と歯科からの支援に関する検討

鈴木 瞳 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康教育学分野)

幼児期からの口腔機能の健全な育成は、生涯にわたる口腔機能の維持に重要であり、近年、小児期の口腔機能が着目されている。そこで本研究では、幼児期の口腔機能・食行動の現状と問題点を調査し、歯科からの支援について検討した。調査の結果、食事中の立ち歩きといった食行動の問題、「口を開けたまま咀嚼」等の口腔機能の問題を抱える幼児が一定数認められ、これらと食事量減少や食事時間延長との関連が示された。また、歯科からの支援の不足、保護者が食行動の問題を口腔機能の観点から捉えられていない現状も明らかとなり、歯科衛生士が身近な相談役として、食機能育成について包括的視点に立った支援を行っていく必要性が示唆された。

最後に、この度大変栄誉のある賞を頂いたことに、学会関係者の皆様、研究へご協力を頂いた方々に心より御礼申し上げます。今後も、患者への支援、研究、教育活動において微力ながら貢献できるよう真摯に取り組む所存である。

学術論文賞 (サンスター財団賞)

第17回学術論文賞は、日本歯科衛生学会雑誌Vol.16 No.1およびNo.2に掲載された論文10編の著者から、学術表彰選考委員会において以下の3名の受賞が決定した。最優秀賞の木下(上村)真純氏の受賞口演が配信された。

木下(上村)氏の受賞論文は日本歯科衛生学会雑誌Vol.16 No.1 (2021年8月発行) p.31

表彰区分	氏名	タイトル
最優秀賞	木下(上村)真純	造血幹細胞移植患者における口腔清掃状態と口腔粘膜炎症重症度の検討
優秀賞	山村 有希子	歯科衛生士による禁煙支援の実施状況と関連要因の検討
奨励賞	大矢 幸慧	歯科衛生士学生の加熱式タバコを含めた受動喫煙に対する認識と受動喫煙寛容度

(敬称略)

学術論文 最優秀賞

造血幹細胞移植患者における口腔清掃状態と口腔粘膜炎症重症度の検討

木下(上村) 真純 (福井県歯科衛生士会 会員)

造血幹細胞移植では大量化学療法や放射線照射の影響により、口腔粘膜炎症が高頻度に出現する。口腔内環境が不良であると、口腔粘膜炎症から全身感染症へ移行するリスクが高くなるが、移植患者の口腔清掃状態と口腔粘膜炎症重症度との関連を述べた報告は少ない。そこで本研究では造血幹細胞移植直前の患者の口腔清掃状態および移植後1、2、3週間時点でのセルフケア状況と口腔粘膜炎症重症度との関連について検討した。移植前の口腔清掃状態と口腔粘膜炎症重症度との間に相関は認められなかったが、移植期間中に歯ブラシを用いたセルフケアが実施できた群では口腔粘膜炎症が軽症もしくは改善が認められた。すなわち、移植期間中における歯ブラシなどによる口腔内細菌叢の物理的排除こそが口腔粘膜炎症重症化の回避に重要であることが示唆された。

本研究を遂行するにあたり、ご協力ならびにご助言を賜りました自治医科大学および自治医科大学附属病院の先生方、スタッフの方々に深く感謝申し上げます。

ブロック連絡協議会 ブロック研修 開催報告

関東信越ブロック(千葉県)

一般社団法人 千葉県歯科衛生士会 会長 高澤 みどり

令和4年10月1日(土)、関東信越ブロック連絡協議会およびブロック研修は、コロナ禍のためWebにて開催された。まず、関東信越ブロック連絡協議会(10時半~13時)は、日本歯科衛生士会から吉田直美会長、茂木美保副会長、長谷規子ブロック理事、また10都県から41名の参加をいただいた。

吉田会長には、各都県での協議時間を多く取るために、情報提供は短めにするとご配慮いただいたが、短時間の中で、国葬出席報告や今後の事業展開など興味深い内容が凝縮されていた。特に、人材育成については、日本歯科衛生士会と地方会が両輪となり進んでいく必要性を痛感した。各都県の協議事項は、昨年度と同様、事前に書面での協議を行い、当日、その結果を各都県から発表し、質疑応答を行った。協議時間を多く取る配分としたが、あっという間に時間が過ぎ、有意義な協議となった。

次にブロック研修(14時~16時)は、70名(講演聴講のみ40名、グループワーク30名)の参加をいただいた。

前半はハワード・ジョイマン氏による「歯科衛生士の強み戦略」についての講演、後半は、ブレイクアウトルームでのグループワークを行った。慣れないオンラインでの開催で、参加者にはご迷惑をおかけすることとなったが、本会スタッフが一丸となり取り組めたことは非常に大きな副産物となった。

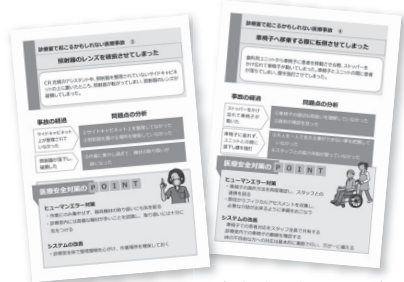
最後に、日本歯科衛生士会、各都県のみなさまに心から感謝申し上げる。

取り組んでいますか？ 新人歯科衛生士のための医療安全！



診療所では日々安全確認を行い歯科衛生士業務に努めていると思いますが、起こってはならない医療事故。身近に起こりうるインシデントの事例を、コロナ禍で臨床実習の経験が少なかった新人歯科衛生士の皆様のために、再発防止策ポイントをまとめました。

日本歯科衛生士会ウェブサイトアップしていますので、ぜひご覧いただき、医療安全対策にお役立てください！



(診療所委員会)

＜代議員選出数について＞

代議員選挙は、公益社団法人日本歯科衛生士会定款及び代議員選挙規則に基づいて行われます。都道府県別の代議員選出数は、定款第12条及び代議員選挙規則第3条に基づき、下記の通り決定しました。

都道府県別、代議員選出数(令和4年9月30日現在の正会員数に基づく代議員数) (83名)

北海道	3	埼玉県	2	岐阜県	2	鳥取県	1	佐賀県	1
青森県	1	千葉県	3	静岡県	2	島根県	1	長崎県	1
岩手県	1	東京都	6	愛知県	5	岡山県	1	熊本県	3
宮城県	1	神奈川県	3	三重県	1	広島県	2	大分県	1
秋田県	1	山梨県	1	滋賀県	1	山口県	1	宮崎県	1
山形県	1	長野県	2	京都府	2	徳島県	1	鹿児島県	1
福島県	1	新潟県	2	大阪府	5	香川県	1	沖縄県	1
茨城県	1	富山県	1	兵庫県	6	愛媛県	1		
栃木県	1	石川県	1	奈良県	1	高知県	1		
群馬県	2	福井県	1	和歌山県	1	福岡県	3		

認定歯科衛生士の皆さん、認定更新の時期をご存じですか

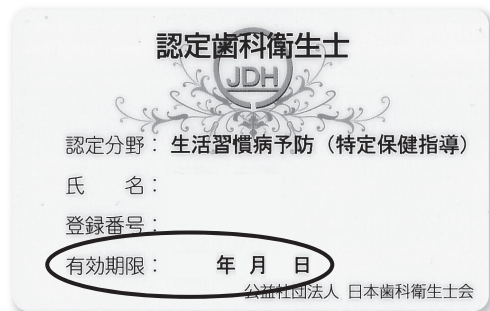
歯科衛生士の専門性が高まるなか、専門分野の認定を継続更新することは、多職種と連携して地域医療を支えるうえで、とても重要です。しかし、残念なことに、認定資格を取得したものの、うっかりして申請時期を逃し、資格喪失になった方も多くいます。そこで今回は、認定更新に向けた計画的な準備、スケジュール管理について確認します。

近年は都道府県会のオンライン研修も増え、他府県研修への参加も含め単位が取得しやすい状況になっています。また、日常業務を通じて得た知見等を学術大会や論文に発表することも認定更新に生かせます。

ぜひ、チェックしてみてください。

ステップ1 あなたの認定の有効期限は？

- ◆ 「認定証」および「認定歯科衛生士カード」に有効期限が記載されています。



(例) 認定歯科衛生士カード

ステップ2 あなたの認定更新申請の時期は？

認定更新受付時期は約4年半後です。

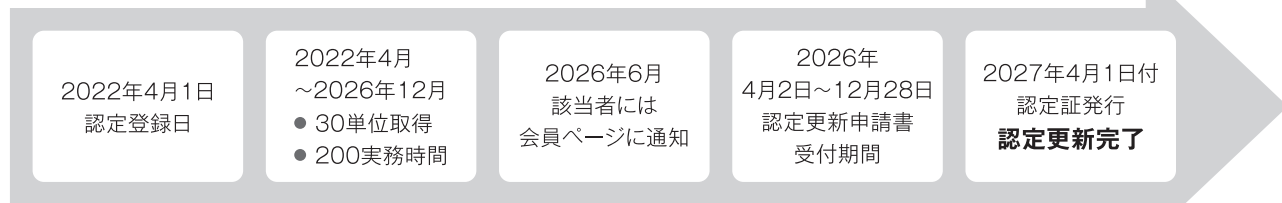
※今年度は更新申請該当者へ、6月に案内文(会員ページの確認)を発送しました。

今後の更新時期については「会員ページ」にご案内いたします。常にご自身の情報を確認ください。研修単位情報も確認できますのでおおいに活用していきましょう。

◆ 認定分野A

コース名：「生活習慣病予防」「摂食嚥下リハビリテーション」「在宅療養指導・口腔機能管理」「糖尿病予防指導」「医科歯科連携・口腔機能管理」「歯科医療安全管理」

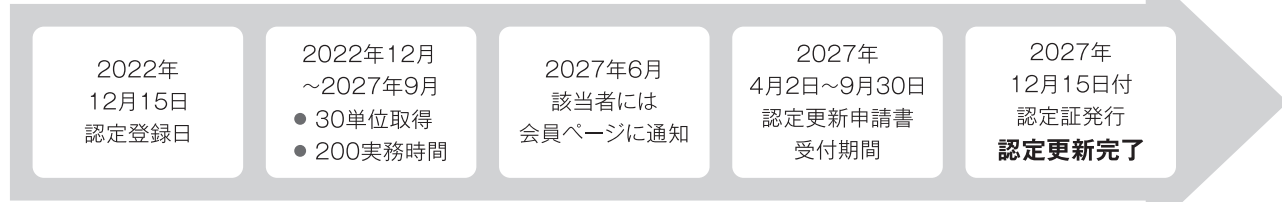
(例) 認定取得が2022年4月1日の場合



◆ 認定分野B

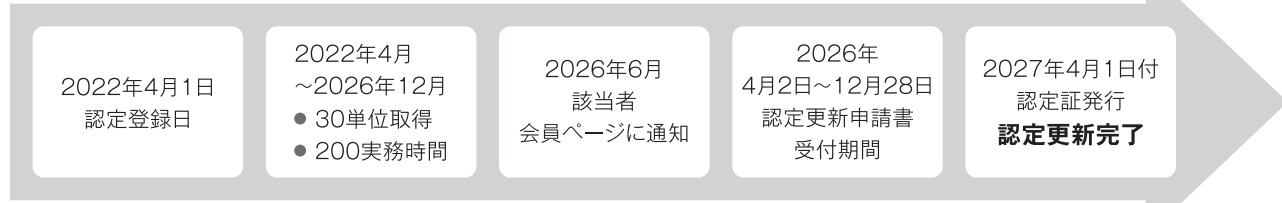
コース名：「障害者歯科」

(例) 認定取得が2022年12月15日の場合



コース名：「老年歯科」「う蝕予防管理」

(例) 認定取得が2022年4月1日の場合



コース名：「地域歯科保健」「口腔保健管理」 ※日本口腔衛生学会規則による

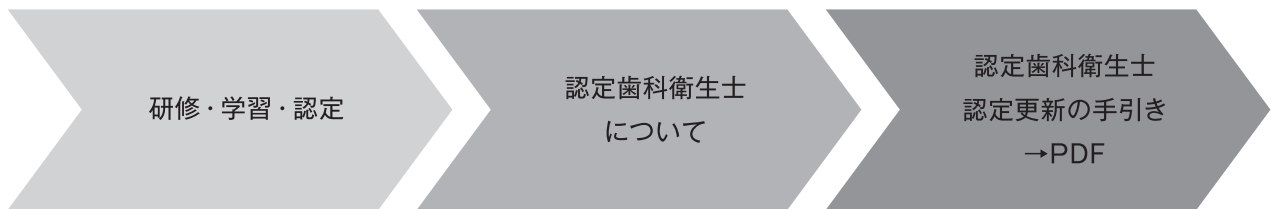
- ◆ 認定分野C：併有している認定分野Aまたは認定分野Bの更新により自動的に更新されます。

ステップ3 認定更新に必要な要件

- 日本国の歯科衛生士免許がある。
- 認定歯科衛生士である。
- 過去5年間(認定登録日から認定更新申請書類の受付終了日前日まで)の認定分野に関する歯科衛生士実務時間が200時間以上に達していること。
※実務内容は、実践、指導、教育、相談の業務に携わっていること。
- 過去5年間(認定登録日から認定更新申請書類の受付終了日前日まで)の認定更新生涯研修単位が30単位以上あること
※ 認定分野B「障害者歯科」「老年歯科」「う蝕予防管理」は、認定更新生涯研修単位30単位のうち推薦母体の専門学会の受講研修、能動研修による単位を20単位以上含むものとする。
※ 認定分野B「地域歯科保健」「口腔保健管理」は、日本口腔衛生学会規則による。

◆ 詳細については、日本歯科衛生会ホームページで確認しましょう。

- 「認定歯科衛生士認定更新の手引き」で研修単位の確認



- 「会員ページ」で自分の取得単位の確認



※実務時間については、約4年半で200時間取得となります。
コロナ禍等で思うように取得できない場合はご相談ください。

公益社団法人 日本歯科衛生士会 認定歯科衛生士委員会 (2022.12.1現在)

英語版ウェブサイトを更新しました

国際歯科衛生士連盟「International Federation of Dental Hygienists (IFDH)」のメンバーとして、諸外国の歯科衛生士と緊密に情報交換が行えるよう、英語版ウェブサイトを更新しました。

本会の国際的な場におけるプレゼンスがよりいっそう高められるよう、今後も英語版サイトを充実させ取り組んでまいります。

本会ウェブサイトのトピックス「英語版ウェブサイトリニューアルのお知らせ」から、QRコードをダウンロードしてご活用ください(個人利用のみ)。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です



QRコード

詳しくは
こちら▶

日本歯科衛生士会 英語版 <https://www.jdha.or.jp/en/>

(国際協力委員会)



石川県歯科衛生士会 養成校とのかかわりについて

石川県歯科衛生士会は歯科衛生士養成校と、いろいろな場面でもかかわりを持つようにしています。その中で、社会への貢献や資質向上に向けた活動などを学生に見てもらい、在学中から会の活動に触れることにより、業務に適應する能力・態度を養えることを伝えてきました。

その一環として年に1度、石川県歯科衛生士会から学生へ「歯科衛生士会とはどのような団体であるか」の説明会を実施しております。そこでは、地域の小中学校での歯科保健指導など身近な活動から、被災地での口腔保健と健康増進の支援など幅広い活動を説明しています。さらに、日頃から災害など万が一の場合に備えて、組織的な準備を行っていることも伝えていきます。その他、「歯とお口の健康週間」イベント



歯とお口の健康週間行事
(歯科衛生士会コーナーに学生会員として参加)

には養成校の学生も参加するので、先輩歯科衛生士の活躍を体感してもらい、交流できる貴重な場になっています。他にも養成校では1年次に数名の先輩歯科衛生士の講義を受けてもらっています。例えば、病院の歯科口腔外科で勤務する歯科衛生士の講義では、病院での役割や業務内容、患者さんへの思いを話していただくと、仕事へ取り組む真摯な姿勢に、先輩を尊敬する気持ちが感じられるようになります。担当制で予防業務を任せられる歯科衛生士の講義からは、患者さんに寄り添い、熱い心と冷静な頭を持ちながら、保健指導のスキルで、患者さんと共に決めた目標を目指すということを教えていただき、自分たちの将来像を思い描くことができる良い機会になっていると思います。

そして、日本歯科衛生士会ウェブサイトのさまざまなコンテンツ、媒体などを利用できることもメリットとして伝えていきます。例えば、DH-KENであれば、研修会場へ出向かずに勉強できます。そして、ページ内から「お薬とお口の関係 ドライマウス」をはじめとする何種類ものリーフレットをダウンロードで活用できることや、乳幼児健診で使える「母子保健事業にそのまま活用できる歯科保健指導カード」を入手することなど、興味を持ってもらえるものを紹介していくことが

一般社団法人 石川県歯科衛生士会 中越 暁美

大事だと考えています。その上で、3年次には学生会員として、勉強の役に立ててもらえるコンテンツを活用してもらいたいと考えております。



宣誓式(歯科衛生士会会長臨席)

養成校へ直接出向く機会である入学式や戴帽式、卒業式では、石川県歯科衛生士会会長が来賓として臨席し、歯科衛生士を志す学生たちを見守ってきました。そして、卒業時には、新人歯科衛生士として新しく仲間になる卒業生に石川県歯科衛生士会から、卒業記念品を贈呈しております。ここ数年は残念ながら、感染予防対策のため、式典の参加が制限されておりますので、日常が取り戻され、学生たちと直接触れ合える機会が戻ってくる日を待っている状況です。

3年間をかけて目指してきた職業である歯科衛生士の免許を、晴れて取得できたら、今度は学生会員から日本歯科衛生士会の本会員になります。会員には研修会や学術大会等に会員価格で参加できたり、入院時の見舞金や万一の事故に備えた保険が使えるたりさまざまなメリットがあることも伝えます。

そして、歯科衛生士会の研修を通して認定歯科衛生士取得を目指せるので、専門分野における口腔健康管理の重要性が高まる昨今の歯科医療を考えると、入会はスキルアップに必須となっていると思われる。今後、夢と希望を持って現場に向かう新人歯科衛生士にとって、本会が力強い味方と感じてもらえるように取り組んでいきたいと考えております。



卒業式(歯科衛生士会会長賞表彰学生)

そして、歯科衛生士会の研修を通して認定歯科衛生士取得を目指せるので、専門分野における口腔健康管理の重要性が高まる昨今の歯科医療を考えると、入会はスキルアップに必須となっていると思われる。今後、夢と希望を持って現場に向かう新人歯科衛生士にとって、本会が力強い味方と感じてもらえるように取り組んでいきたいと考えております。

組織委員会
感想はこちらから



「業務従事者届」を忘れずに!

業務に従事する歯科衛生士は、2年ごとに、就業地の都道府県知事に12月31日現在の氏名・住所など、厚生労働省令で定める事項を、翌年1月15日までに届け出ることが法律で定められています(歯科衛生士法第6条第3項)。届出を怠った者は30万円以下の罰金に処せられます(歯科衛生士法第20条)。

※就業地の保健所で、**令和5年1月15日まで**に届出手続きを忘れずに行いましょう。

Linking JDHA to IFDH

「International Journal of Dental Hygiene」



本会では、国際歯科衛生士連盟「International Federation of Dental Hygienists (IFDH)」が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene (IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトから直接アクセスできるように、最新号のURLを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。

(FAX 03-3209-8023)

* 2022年 歯科衛生国際シンポジウムにおいてIFDHのロゴが新しくなりました。

国際歯科衛生士誌

2022年8月 第20巻3号

2022年8月に公開されたIJDHでは、小児を対象としたう蝕予防の効果、患者指導におけるYouTubeの動画の活用やスマートフォンなどの端末で利用できるアプリケーションの効果にフォーカスを当てた論文が掲載されています。日本でも歯科系のYouTuberや治療に関する情報を発信している歯科医院、歯科関連のアプリケーション等、さまざまな情報やツールが増加しています。日頃から患者さんにお勧めできるコンテンツリストを作成したり、自分自身でも実際にアプリケーションを試してみたりすることで、患者指導の質が高まるように思います。また、埼玉県立大学の久保田チエコさんの地域に住む高齢者を対象とした歯科医院の受診状況とそれぞれの性格の関連性を調べた論文も掲載されています。日本の研究成果が国際雑誌に掲載することは大変喜ばしいことです。



(国際協力委員会 竹之内 茜)

理事会報告

令和4年度第3回理事会が令和4年10月2日(日)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 次期代議員選挙の告示及び都道府県別代議員数について
- (2) 令和4年度歯科衛生推進フォーラム及び都道府県歯科衛生士会会長の開催について
- (3) 令和4年度歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業について
- (4) 令和4年度 全国病院歯科衛生士連絡協議会 実施要領(案)について
- (5) 日本歯科衛生学会第19回(令和6年)学術大会 開催担当都道府県会及び大会長について
- (6) 都道府県歯科衛生士会への研修支援事業について
- (7) 終身会員の承認について
- (8) 新入会員の承認について
- (9) 日本歯科衛生学会第18回学術大会(令和5年度)、韓国歯科衛生学会会長の招聘講演について
- (10) その他

- (2) 「専門歯科衛生士制度検討プロジェクト」第1回及び第2回委員会について
- (3) 監査実施報告について
- (4) 職員の昇任等について
- (5) 令和3年度事業報告等の提出(内閣府)について
- (6) 令和4年度歯科保健関係予算概算要求について
- (7) 医療安全推進週間について
- (8) 第43回全国歯科保健大会について
- (9) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について
- (10) 口腔保健に関する予防強化推進モデル事業(歯科疾患の一次予防モデル事業の検証等)調査研究等一式の委員の推薦について
- (11) 特定非営利活動法人 日本歯科保存学会理事の推薦について
- (12) 一般社団法人 医療安全全国共同行動 2022年度定時総会について
- (13) 第79回全国小学生歯みがき大会組織委員会について
- (14) 日本歯周病学会の訂正報告(連絡事項)について
- (15) 令和4年度「健やか親子21~8020の里賞(ロッセ賞)~」審査委員会について
- (16) 令和4年度 歯科保健医療情報サイトにおける自治体事例選定委員会について
- (17) 令和4年度広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター運営委員会への陪席者の派遣について
- (18) その他

報告事項

- (1) 会務報告について
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告について
 - ② 常務理事会の報告について
 - ③ 常任委員会等の報告について